

平成29年度第3回花巻市行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

平成29年7月18日（火） 午前10時～11時30分

2 開催場所

花巻市役所3階小会議室

3 出席者

(1) 委員 4名

影山部会長、小山田委員、戸来委員、高橋委員（※佐藤委員、箱崎委員は欠席）

(2) 説明者（施策主管課） 2名

富澤観光課長、鈴木同課長補佐

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 2名

秘書政策課：企画調整係瀬川上席主任

財政課：経営財務係菅原上席主任

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「観光情報の発信」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

戸来委員：以前は、旅行業者を通して来る旅行客が多かったが、今はインターネットを利用して自分で探す旅行客が多くなってきている。それに対応できない旅館では集客が減ってきているようだ。震災後は、イベント時や旅行雑誌に掲載したときなどは短期間に効果があるが、すぐに元に戻ってしまう状況である。また、地域格差も現れているようなので、何かいい方法があればと感じている。

花巻市を訪れる外国人旅行客はあまり多くないのではないかと。安比や小岩井農場には行っているようだが、花巻市には外国人がゆっくり回る環境が整備されていないのではないかと感じている。

高橋委員：自身の感覚では、県外旅行の際、以前は旅館に泊まっていたが、今はビジネスホテルに泊まって地場のおいしいものを食べることにお金を使う方向に変わった。他の旅行者もそうなのではないか。従来と同じように考えていく

と、宿泊という面では課題がある。新しいスポットである早池峰山やS L 銀河のようなものが、あと1つ2つあれば変わるかもしれないが、見つけるのは難しいと思う。

戸来委員：2月までの県内宿泊券があったときは、宿泊客が目に見えて多かった。県内でタイアップして広域で考えていくのもいいのではないかな。

高橋委員：花巻市においでになる方は、新幹線を利用している人が多いと思っていたが、自家用車が多かった。今はカーナビもある。施策を変えないと、単純に、アクセスの問題という発想ではなくなるのではないかな。

戸来委員：新幹線に関して、花巻南温泉峡や花巻温泉は定期でバスの送迎があるため、台温泉などと格差があるのではないかな。

富澤課長：送迎バスについては、新花巻駅から花巻駅を經由して花巻温泉・台温泉への系統と、南温泉峡系統の無料送迎バスを組合が運行していて、それに対する支援も行っている。

高橋委員：花巻空港を利用する観光客の状況は？

富澤課長：これから増えてくると考えている。今のところ、台湾の観光客は団体で来て貸し切りバスというのが主だが、去年の6月に民営化した仙台空港の台湾定期便で、個人旅行のお客様が入ってきている。個人で東北エリアを回るため、二次交通をどうするかが課題。

戸来委員：松島に泊まって、狛鼻溪、平泉を観光して花巻市内に泊まって、小岩井を見て十和田に泊まるという昔の旅行パターンが崩れている。

富澤課長：秋田の武家屋敷から青森に行って奥入瀬を見て、花巻温泉郷に泊まるなど、私たちでは思いつかないようなルートで旅行する。国内での移動時間はあまり苦にされていないのではないかなと思う。

高橋委員：鳥取、島根は観光バスが盛んだったが、今は羽田便を活用しているとのこと。観光というのは、どんどん変わってくる。

富澤課長：この事業とは別に、去年から貸し切りバスへの助成を始めたが、増える傾向にない。

小山田委員：外国人観光客誘致促進事業は平成28年度からの新規か？

富澤課長：国の交付金が入ってきている部分が新規である。従来から海外の現地プロモーション事業、商談会、旅行博覧会などには行って売り込みはしていたが、施設内表記の多言語化、遠野市・平泉町との連携の部分が国の交付金事業に該当する。また、従来のも事業も一部対象となっており、事業の拡充と予算規模の拡大を図っている。

小山田委員：成果指標の2つ目「観光施設、イベントが雑誌等で取り上げられた件数」について、実際はもっと多いのではないかな。

富澤課長：実際はもっと露出しているが、旅行商品を販売する旅行雑誌等に限定してカウントしている。

小山田委員：あくまでもカウントしているのはPRの記事なのか。

富澤課長：花巻市の魅力を聞かれたのに対して答えるような記事広告が主である。そのやりとりがあったものをカウントしている。

小山田委員：外国人向けのHPで、今は動画配信を行っていないのか。

富澤課長：市のHPにはないが、観光協会のHPで見られるようになっている。

戸来委員：平泉の誘客数が減ってきているため、花巻市内の温泉にも影響しているのではないか。長期的に効果のあるものが出てくればいいと思う。

富澤課長：花巻市に宿泊していただいているお客様のほとんどが台湾から来ている。次に香港と、アジア圏が占めている。時間とお金に余裕がある方で、上品で客単価が高い客層が来ている。

戸来委員：単価を下げすぎない方が、お客さんが来るようだ。

高橋委員：旅行者の出発地を見ると、ほとんどが東北と関東からであることに驚いている。

富澤課長：アンケート調査は年に2回行っている。花巻温泉郷と宮沢賢治記念館で調査したものを合わせているがこの状況である。特に、冬は宮城県など近場からになる。近隣からの旅行者は、旅行での消費額が低い傾向にある。

戸来委員：実際、東京からのお客様に比べ、東北からのお客様の場合は、売店売り上げが伸びないようだ。

高橋委員：東北からの観光客は自家用車が多いだろうから、途中で色々買えるのだろう。

富澤課長：例えば花巻市の食、グルメが伸びて、「ここに来ないと食べられない」といった価値が浸透すれば、市内に経済効果が生まれるのではないか。

戸来委員：今、働く人の確保が難しくなっている。やりたい事業ができなくて二の足を踏んでいる経営者もいるようだ。

小山田委員：施策の方向に「賢治と食による新たな観光発信」とあるが今回の実績からは抜けている。優先順位で外れているのか？

富澤課長：賢治まちづくり課ができたこともあり、情報発信は行っていくが、事業は賢治まちづくり課が行うことになる。

影山部会長：施策評価シートの「現状と課題」のところで、課題が明確に記載されていないが、情報発信が宿泊等に必ずしも繋がってきていないところが課題になるのか？有名になることだけではなく、経済的効果を実際に産む、さらなる発展が課題になるのではないか。

富澤課長：有名になることで、市内経済が潤ってくることが最終目的ととらえている。市内経済に占める割合は宿泊が大きい。イベントと入込は連動するが、宿泊には結び付いていないのが現状の課題である。宿泊の閑散期にイベントをぶつかけたりして宿泊客を増やすことを考えている。

戸来委員：「花巻市に宿泊した方に、『行きたい観光地が少ない』と言われる」、「宮沢賢治以外の観光客は盛岡市や平泉町に行ってしまう」と聞いている。宿泊とイ

ベントが繋がるようになると課題解決の方向になるのではないかと。

影山部会長：農業体験と連動するとか、スポーツ施設を活用するなど。修学旅行はないのか？

富澤課長：別事業において、花巻・遠野・平泉の3市町の協議会で修学旅行の誘致事業をやっている。

影山部会長：外国人観光客は、韓国、中国、台湾が多いが、ベトナム、タイなど東南アジアからも来るようになっている。台湾頼みではなく、ターゲットを広げていければ。飛行機が飛ばないと何ともならないが・・・。

富澤課長：今は他の地方空港から二次交通で入ってくる。また、国内チャーターの可能性もある。ただ、対象国へのプロモーションが花巻市だけでは弱いので、少なくとも岩手県で同じ方向を向いてやっていかないと効果は発揮できないと考えている。

影山部会長：多言語化で、中国、ハングル、英語はあるが、東南アジアの言語も一つぐらいはあってもいいと思う。

高橋委員：スポーツ施設に関連して、全国大会等で体育施設を利用した方々は温泉に泊まるのか？

富澤課長：先月のハンドボール世界大会では分散して温泉郷にも泊まっていた。観光だけではなくスポーツツーリズムというものがある。花巻市でも実施している。花巻市ではスポーツコンベンションビューローにおいて合宿や大規模大会の誘致を行っている。

高橋委員：最近、世界大会などが開催されているが、スーパーなどでも外国語で対応する力をつけないといけない。

富澤課長：市内飲食店などは、話せなくても、簡単な案内表示やメニューの多言語化が必要になってくる。

高橋委員：それができないと、きちんとした対応、観光施設の案内もできない。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シート】

◇①施策を構成する事務事業の評価・検証について

→ 事務事業の検証について、事業の多くを花巻観光協会に委託しているが、花巻市のチェック機能が働いているのかが明確でない。

◇②施策の成果指標及び達成状況の分析について

→ 背景・要因分析は、花巻温泉郷を中心にとらえたものである。大迫・石鳥谷・東和地域への効果について、十分に評価されていないのではないかと。

◇③施策の総合的な評価について

→ この施策の目指す姿の目標は達成しているが、市内経済へどう波及させるかという課題がある。宿泊だけではなく、食事、お土産、イベント等への波及効果がどうなっているのかを課題の一つとして挙げた方がよいのではないかと。

◇④シート記載内容について

→「現状と課題」の欄に現状については記載されているが、課題が記載されていない。
経済的波及効果へのつながりが今後の課題であることを明記すべきである。